

日の入りが早まります。早めのライト・オンを。
シルバーウィークは安全運転で楽しい休暇をお過ごしください。

この用紙は両面印刷でご使用ください。

(表)



危うく衝突するところでした。



この映像の訴求ポイントは…

◎焦る渋滞中だからこそ待つ余裕を。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



交差点でのヘッドライトにはとにかく徐行…



この映像の訴求ポイントは…

◎交差点の通過を急ぐと、ロクなことになりません。

◎カーブミラーでヘッドライトが見えたら徐行しましょう。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



前走車の陰も車列の切れ目も原理は同じ…



この映像の訴求ポイントは…

◎たとえ相手が違反していても、事故を起こさないことが重要。

◎横断歩道の通過は徐行が一番。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



駐車場から出てくる車



この映像の訴求ポイントは…

◎見えぬなら、見えるようになるまで待ちましょう。

◎長く感じますが、待ち時間は、大抵、ほんの数秒です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



なんで、こんな目に遭うの



この映像の訴求ポイントは…

◎安全運転&危険予測を怠らなくても事故は起こります。

◎シートベルトやチャイルドシートを忘れずに！



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】自動運転が普及すると事故はなくなる？

IT技術の進化で、自動車の運転も自動化される見込みが出てきました。“自動運転”と聞くと、多くの人がイメージするのは、「自分はハンドルを握らなくても車がそのまま走りだして目的地まで連れていってくれる」というものでしょう。これこそ究極の自動運転で、海外では一般的にこのようなクルマを“ロボットカー”と呼びます。“ロボットカー”は、いつかは実用化されるでしょうが、それがいつかについては、専門家の間でも意見は分かれています。そもそも運転の自動化には段階があるというのが政府や専門家の考え方です。具体的には、ドライバーが運転操作に関与する度合いに応じて、レベル1から5まで段階分けしています。

実は、レベル1は、いま、すでに街中を走っている車です。新車で普及が進んでいる安全運転支援システム搭載車のことです。被害軽減自動ブレーキや車線逸脱警告、オートクルーズなどの機能に対応しています。最近では、レベル2の実用化も始まっています。レベル2は、レベル1よりも高度な運転支援を実現するもので、一定の条件ではハンドルを握らずに自動で車線内を走行したり、車線変更をしてくれるものです。

そしてレベル3。政府が東京オリンピックまでに実現を目指し、国内自動車メーカーの技術開発を後押ししているもので、通常の運転操作は自動ですが、緊急時のみドライバーが対応する状態をいいます。前述の“ロボットカー”のイメージに近いものですね。レベル4は、緊急時も自動車が対応する、完全な“無人ロボットカー”が想定されています。ここまできると、もはや自動車というよりも、お使いなどが代行可能なパートナーロボットですね。

自動運転が普及すると事故はなくなるのでしょうか？例えば、自動ブレーキが作動するということは、そのまま前を進んでいたら衝突していたのにそれを免れることができるわけですから、事故を未然に防ぐ効果があります。実際、安全運転支援システム搭載車の関与する事故率が下がったデータもあります。自動運転の普及とともに事故の数も減っていくことが予想されます。

とはいえ、それは事故がゼロになることではありません。最も恐ろしいのは、何らかの理由で自動運転が正常に作動せずに事故を起こすことですが、たとえ正常に作動していたとしても、避けきれないタイミングで動物が飛び出してきたり、落石に遭遇したりといったことは起こります。そんなとき、車内の乗員は確実にシートベルトを装着し、乳幼児はチャイルドシートに着座していることが求められます。そもそもレベル4が実現するまでは、緊急時の回避操作はドライバーに委ねられていますから、ドライバーはいつでもハンドルを握り、ブレーキペダルを踏める状態で“待機”していなくてはなりません。高速で移動する自動車は本来的に危険な乗り物です。たとえロボットカーが実現しても、その車内では、ほぼ、今まで通りの乗車姿勢が求められることになるのです。



本州でも路面が凍結するところも出てきます。
標高の高い所へ行く際はスタッドレスタイヤに交換を。

この用紙は両面印刷でご利用ください。

(表)

 <p>ぶつかる!</p>	<p>この映像の訴求ポイントは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎前走車や対向車が止まった時は何か理由があります。 ◎安易な追い越し・すり抜けは事故の元。 <p>類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。</p> <hr/> <hr/> <hr/>
 <p>角材落とした大馬鹿者はどこのどいつじゃ!</p>	<p>この映像の訴求ポイントは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎回避行動が多重事故を引き起こすこともあります。 ◎発進前に荷物の固定やドアロックを今一度確認しましょう。 <p>類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。</p> <hr/> <hr/> <hr/>
 <p>左見て</p>	<p>この映像の訴求ポイントは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎郊外の道路はついついスピードを出し過ぎですが… ◎これが夜間だったらどうなるか? 想像してみましよう。 <p>類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。</p> <hr/> <hr/> <hr/>
 <p>信号守れよ このバカちんがー!!!</p>	<p>この映像の訴求ポイントは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎衝突回避は急ブレーキが基本です。 ◎信号は全員が守る…と全員が信じているから機能します。 <p>類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。</p> <hr/> <hr/> <hr/>
 <p>危ないよ</p>	<p>この映像の訴求ポイントは…</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎事故が起きて、まずすべきことは、安全確保です。 ◎ガードレールの内側に待避。追突されれば車内も危険です。 <p>類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。</p> <hr/> <hr/> <hr/>

【コラム】夜間のヘッドライトは上向きが原則です

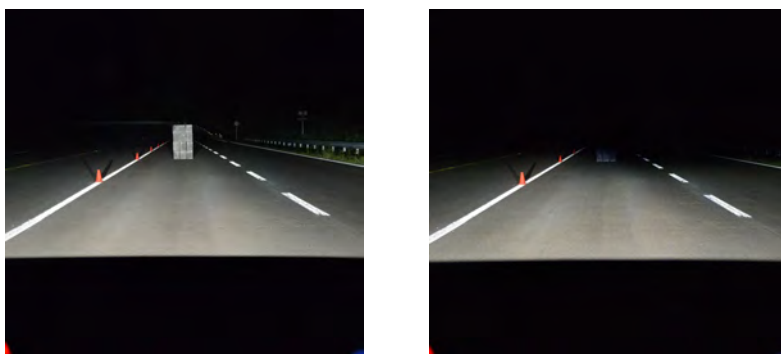
ヘッドライトが知らずに上向き（ハイビームとも言います）になっていて、対向車からのパッシングで気付いた…なんて経験はありませんか？

確かにヘッドライトが上向きだと、対向車側のドライバーの目に直接ヘッドライトの強い光が当たりますので、前方が見えづらくなり、運転に大きな支障が生じます。ですから、対向車がいるときは、必ずライトを下向きにするのがマナーです。

しかし、対向車がないときは、原則としてヘッドライトは上向きで点灯して走行します。特に街灯が設置されていないような郊外の暗い道路では、ヘッドライトが下向きだと、路上の障害物や歩行者に気付くのが遅れ、悲惨な事故につながる恐れがあります。

ヘッドライトの照射範囲は、上向きと下向きで大きな差があります。上向きの際の照射範囲は約 100 メートル、下向きの際の照射範囲は約 40 メートルとされています。時速 60km の時の制動距離はおよそ 20 メートルですが、ライトで現れた障害物や歩行者を認識して急ブレーキをかけるまでには通常 1~2 秒ほどかかります。このブレーキをかけるまでにクルマが進む距離（空走距離と言います）は時速 60km ですとおよそ 16~33 メートル。ですから、暗い夜道を下向きライトで走行中に車道上の障害物や歩行者と出遭ったとすると、ブレーキをかけても間に合わない可能性が高いのです。

最近の新車に装備されているヘッドライトは、ライトの光量が上がった分、光軸や上に漏れる光をカットするなどして照射範囲がくっきりと分かれるようになっています。ヘッドライトが下向きだと、目の前の路面状況はよく把握できますが、いざ路上の障害物や歩行者が現れたときにブレーキが間に合わず、衝突してしまう恐れがあります。郊外の暗い道路を走る時は、必ずヘッドライトを上向きにして、対向車や路側に歩行者がいるときはこまめに下向きに切り替える運転が求められます。



上の写真は、前方 40 メートルの位置に置いた障害物^(※)を、最新型のヘッドライトを使い、上向き（左）・下向き（右）で照射したときの様子です。
下向きライトでは障害物は闇に紛れて視認できません。

(※) 障害物は、高さ 152 センチ×幅 86 センチの黒色に着色した段ボール箱の山。

日没も早くなりました。
早めのライトオンを心がけましょう。

この用紙は両面印刷でご使用ください。

(表)



危うく！



この映像の訴求ポイントは…

- ◎歩道を併走する自転車が車道への飛び出しに注意。
- ◎飛び出し可能地点は？…ガードレールの切れ目。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



対向車線の混雑は切れ目からの飛び出しに注意



この映像の訴求ポイントは…

- ◎隣車線が混雑中は車列の切れ目からの飛び出しに注意。
- ◎アクセルペダルからブレーキペダルに足を移動します。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



雨の日の夜間 横断する人が見えない！！



この映像の訴求ポイントは…

- ◎雨の日の夜は、歩行者・自転車の見落としに注意。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



ETCレーン手前、追突しそうになりました。



この映像の訴求ポイントは…

- ◎料金所付近は事故多発地帯です。
- ◎併走車の死角に入らないように走ろう。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



やられました・・・



この映像の訴求ポイントは…

- ◎車間距離がないと、もらい事故で二次事故の当事者になります。
- ◎ヘッドレスト、調節していますか？



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】雨の日走行に備えて…タイヤとガラスのケアを

雨の日は、晴れの日に比べて事故が5倍になると言われています。これは、雨で濡れて路面が滑りやすくなることでタイヤがスリップして事故につながったり、雨滴などで視界が遮られることで歩行者や自転車の発見が遅れて事故につながるためです。

雨天時に起きる事故で最も多いのがスリップ事故です。濡れて滑りやすくなっている路面で、いつもと同じように運転していたらスリップしてしまった、ということが起きます。普段よりも速度を控えめに、カーブなどではカーブへの進入前に十分に減速するなどしましょう。急加速・急減速も禁物です。

高速道路を走行中は、タイヤと路面との間に水の膜ができてブレーキやハンドル操作が効かなくなる「ハイドロプレーニング」も起きやすくなります。普段よりもスピードを控えめにして走ることが大事です。

タイヤがすり減っていると滑りやすくなります。タイヤがすり減ると溝が浅くなり、路面の水を排水しにくくするからです。普段から定期的にタイヤをチェックして、スリップサイン（側面に△のマークが付いています）が出ているようであれば、すぐにタイヤを交換しましょう。

雨の日は雨滴や路面が光を反射するなどして視界が遮られることから、夜間に歩行者や自転車の見落としによる事故も増えます。右左折時や横断歩道の通過時は、普段よりも一層の注意が必要です。

雨の日でも安全に運転するために、視界をクリアに保つようにしましょう。フロントガラスが油膜等で汚れていると、対向車のヘッドライトを受けてガラスがギラギラして見えづらくなります。また、サイドウィンドウの雨滴が流れずに残って、サイドミラーも確認しづらくなります。定期的にフロントガラスとサイドガラス、さらにサイドミラーをきれいに拭いて、撥水剤などを使って雨滴を付きづらくしましょう。



雨の日は車のありがたみを感じられますよね。
だからこそ、安全運転のために、普段からタイヤとガラスのケアをお忘れなく。

12月は年間で最も事故が多い季節です。
 師走で忙しいですが、だからこそ余裕のある安全運転を！

この用紙は両面印刷でご利用ください。

(表)



初雪にて、さっそくやらかしました (TDT)



この映像の訴求ポイントは…

- ◎雪道でスピンしたら後は運任せ。スピンしない運転が肝要です。
- ◎急ブレーキ、急ハンドル、急発進…3つの急な運転は厳禁です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



年末だと言うのに・・・



この映像の訴求ポイントは…

- ◎踏み間違いは誰にでも起こりえます。
- ◎ペダルは「ゆっくり」「ふんわり」踏みましょう (燃費にも良い)



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



横断歩道は歩行者優先です



この映像の訴求ポイントは…

- ◎とにかく横断歩道は歩行者優先です。
- ◎車両の陰で歩行者が見えていない可能性を意識します。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



そんなに急がなくても・・・



この映像の訴求ポイントは…

- ◎待たしている方だって気は急いているのです。
- ◎待つ、譲る、止まる。運転も人生も一寸の心の余裕が肝心。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



飛び出し Kids



この映像の訴求ポイントは…

- ◎子供は飛び出すもの。遊びに夢中で周辺が見えなくなります。
- ◎住宅街はすぐに停まれる速度、具体的には20km/h以下です。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】後席ならシートベルトしなくて大丈夫…そんなことはありません！

クルマに乗ったら全員シートベルト…。毎年、JAFが警察庁と合同で行っている全国調査では、前席のシートベルト装着率は9割に達していますが、後席シートベルトをしている割合は、あまり高くありません。高速道路では減点の対象になることもあり、7割程度と装着率が上がってきていますが、一般道では減点の対象とはなっていないこともあってか、装着率は3割程度と、後席シートベルトをしている人の方が少ないのが実情です。

後席のシートベルトは、「窮屈に感じる」とか「面倒臭い」と感じる人が多いようです。また、後席は前席に比べても安全性が高いと思っている人も少なくないようです。出掛ける先は近場だし、シートベルトしていなくても大丈夫…そんな誤解は、事故時に悲惨な結果をもたらします。

警察の発表データによると、後席シートベルトの着用有無が事故の致死率に与える影響は約3倍といいます。過去にJAFが行った衝突実験では、幹線道路を想定して車速64km/hで衝突したとき、後席のダミー人形は衝撃のはずみで前席を乗り越えて、運転席に座るダミー人形に激突してしまいました。後席でシートベルトをしていないと、衝撃のはずみで飛ばされてしまい、前席に座っている人にとっては、自身が凶器になり得るのです。また、衝突の衝撃で後席に座っていた人がガラスを突き破ったり、開いたドアから車外に放り出され、後続車に轢かれて亡くなる事故も起きています。

事故の多くが自宅から500メートル以内で発生しているというデータもあります。近場だから、高速道路ではないから、といったことは、実際に事故が起きてしまえば理由にならないどころか、本来ならば無傷ですんだ事故を悲惨なものにしてしまう恐れがあるのです。クルマに乗ったら全員が必ずシートベルトを着用することを心がけましょう。



後席シートベルトの衝突テストの様子。シートベルトをしていない後席のダミー人形は、衝撃のはずみで前席を乗り越えて、運転席に座るダミー人形に激突してしまいました。

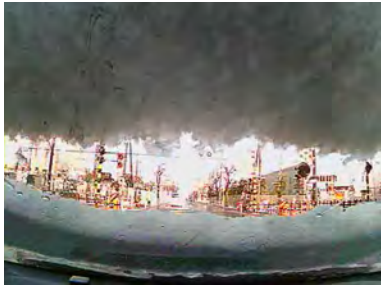
この衝突テストの様子は、JAF ホームページでご覧いただけます。

さあ、新しい一年が始まりました。

今年も良い年でありますように…。気分も新たに安全運転で！

この用紙は両面印刷でご使用ください。

(表)



雪崩・・・



この映像の訴求ポイントは…

- ◎屋根の雪は面倒でも下ろしましょう。
- ◎前に落ちれば視界をふさぎ、後に落ちれば後続車に迷惑。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



やっぱり交差点は注意しましょう！



この映像の訴求ポイントは…

- ◎いくら道に慣れても、見えないところは見えません。
- ◎出会い頭では、見えないところが見えてから動くのが鉄則。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



赤信号の見落としで相手の車と衝突



この映像の訴求ポイントは…

- ◎人が注意できる量には限りがあります。注意容量と言います。
- ◎他のことに気を取られると、目では見ても脳が見ていません。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



左車線より急に車が出て危機一髪停車しました！



この映像の訴求ポイントは…

- ◎車列にさしかかったら、ブレーキに足を移動しましょう。
- ◎物陰から出てくるのは、車だけではありません。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



このバカタレが



この映像の訴求ポイントは…

- ◎横断歩行者がいたとしたら、たぶん同様のことが起きたはず。
- ◎車間距離を空けましょう。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】雪のある地域でのドライブに必要な知識をおさらいしましょう

この季節、スキーを楽しむ方も多いと思います。今回は雪が多い地域でのドライブに必要な知識をおさらいしましょう。

最近スタッドレスタイヤだけで、クルマにチェーンを載せていない人も少なくないようですが、山の上にあるスキー場などでは勾配のある場所も多く、スタッドレスタイヤでは登り切れないこともあります。念のために必ずチェーンも載せていくようにしましょう。チェーンは駆動輪に装着します。4WDの場合も、原則として同じ車種に2WDのモデルがある場合は、その駆動輪と同じ方に付けます。

雪が多い地域での駐車は、次に出発するとき、もっと条件が悪くなっていることを考えて止めるのがコツ。たとえば、できるだけ前進で出られるように止めておくとか、出発時に上り傾斜になる場所は避けるとか。駐車枠の中では、できるだけ通路側に寄せて止めた方がいいでしょう。奥は雪の吹き溜まりになる可能性があるし、万が一スタックしたときにも、後ろにスペースがあると脱出作業がやりやすくなります。また、左右に傾斜している場所は、次の発進時に横滑りの原因になるので、できるだけ避けましょう。駐車時にパーキングブレーキをかけない（マニュアル車ではギアをローかバックに）、ワイパーを立てておくこともポイントです。駐車中に窓ガラスが凍ってしまったときのために、解氷スプレーを用意しておくのもラクです。

雪の多い地域で車を駐車していると、翌朝に車の屋根に大量の雪が積もっていることも。屋根の雪をそのままにしておくと、ブレーキをかけたときに雪がフロントガラスへずり落ちてきて、前方の視界を奪ってしまう危険があります。また、後に雪が落ちた場合には、後続車に迷惑がかかる可能性もあります。出発時には、雪下ろしを忘れずに。

最後に、ディーゼル車に乗っているなら、寒冷地へ行ったらまず現地で給油。なぜかという、軽油の成分は地域や季節によって違って、普段のままの軽油で寒冷地に行くと凍ってしまうことがあるからです。寒冷地で売られている軽油は凍結しにくい成分になっているので、凍ることはありません。寒冷地へ出かけるときには、現地ですぐに給油できるよう、燃料の量を調整しておくといいでしょう。また、凍結を防ぐ添加剤もあるようですので、スタンドなどで聞いてみるのもいいでしょう。ちなみに、寒冷地で入れた軽油で暖かい地域を走ることは問題ありません。



この用紙は両面印刷でご利用ください。

(裏)

厳しい寒さが続きます。雪の少ない地方でも、
突然の降雪や路面凍結にはご注意ください！

この用紙は両面印刷でご使用ください。

(表)



道路凍結時の急な割り込み



この映像の訴求ポイントは…

- ◎雪道や凍結路は制動距離が長くなるので車間距離を多めに。
- ◎雪道タイヤは定期的に交換を。チェーンも積んでおこう。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



左側の歩行者の右寄り



この映像の訴求ポイントは…

- ◎車の音が歩行者に聞こえているとは限りません。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



道路には多くの危険が潜む



この映像の訴求ポイントは…

- ◎相手が避ける・停まる見込みでアテが外れると事故になります。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



住宅街の十字路

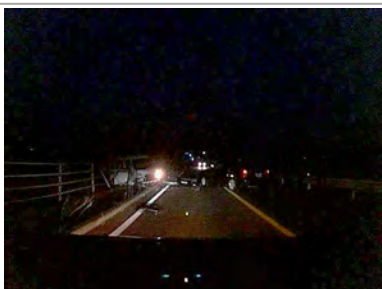


この映像の訴求ポイントは…

- ◎こちらから良く見えていても、相手も見ているとは限りません。
- ◎出てきたような車が見えたら、足はブレーキペダルへ。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。



突然のセンターライン越え！これでは避けようが…



この映像の訴求ポイントは…

- ◎シートベルトやチャイルドシートを忘れずに。
- ◎事故が不可避でも、ケガの程度を軽くすることはできます。



類似の事故防止にあなたが重要と考えられることを書き出してみてください。

【コラム】ペダルの踏み間違いは、なぜ起きる？

アクセルペダルとブレーキペダルの踏み間違いによる事故が多発しています。クラッチ操作が不要なオートマ車で、ブレーキだと思って誤ってアクセルを踏み込み、思いがけず加速。自分の頭では正しく操作をしているつもりなのに、車は逆の動きをするため、慌ててしまい、ペダルをさらに踏み込むことでパニック状態に陥り、大きな事故に至ってしまう…。

このようなペダルの踏み間違いによる事故は、近年、クローズアップされているように高齢者に多いですが、一方で若い世代でも少なくありません。専門家によると、ペダル踏み間違いの原因には、人間本来の操作への慣れや、咄嗟の条件反射によるミスがあり、年齢による差はありますが、誰でも踏み間違いを起こす恐れがあると考えるべきでしょう。踏み間違いを起こさないような操作の仕方や、踏み間違いが起きても事故に至らないような仕組みが求められます。

踏み間違い事故の多くが、駐車場などでの発進時に発生しています。例えば、発進時にアクセルペダルを踏み込む前に、足先を左右に動かして、ペダルに軽く触れるように位置を確認してから踏み込む動作をすると、踏み間違いを防ぐことができます。また、料金精算時など、ブレーキペダルを踏んで停止したまま、手で何かを行うことも事故の元です。面倒でも、いったんシフトレバーをパーキングにして、確実に停車した状態にしてから行うようにしましょう。

機械的な仕組みで、踏み間違いが起きても事故を防ぐものもあります。最近では、踏み間違いを自動で検知してブレーキをかける機能が新車で導入されています。車の買い換え時には、このようなセーフティ機能の付いた車を選ぶのも手です。

また、ペダルに後付加工する踏み間違い防止装置もあります。誤ってアクセルペダルを踏み込んだ時に、踏み込みが解除されるようになっているものや、アクセルとブレーキの操作が同じ“踏み込み”にあることが間違いを誘発する原因であるとして、アクセル操作を足先のスライドに変更する仕組みの商品もあります。



この用紙は両面印刷でご利用ください。

(裏)